

委員長挨拶（2017年1月）

あっという間に2016年も終わりになってしまいました。

2016年には、国際交流面で大きな進展がありました。いずれも私は都合で参れませんでした。6月の第61回 ICSB 大会においては米国ニューヨークの国連本部で開会式が行われ、国際的な存在感を示すとともに、国連に「世界中小企業の日」の設置が提起されたと伺います。9月のインドネシアジャカルタでの第4回 ACSB 大会も盛会であったそうです。

これらの機会には、岡室、加藤両 JICSB 副委員長が参加されるとともに、日本委員会メンバーも積極的な貢献をされました。またニューヨークの ICSB には日本の中小企業庁から、山口国際協力室長(当時)が参加をされています。私として、ICSB を含めて、日本の中小企業にかかる機関が国際交流連携にもっと積極的であってほしいと豊永中小企業庁長官(当時)に要請をし、それにこたえていただいた結果の一つであると申せましょう。

また、JICSB 恒例の夏の「中小企業研究ワークショップ」も盛会に終えることができました。こちらでも、中小企業庁の伊奈調査室長にご報告を頂いております。少しずつながら日本の学界のみならず、行政や関係団体等を巻き込んだ国際化に対応していく動きが進んでいると申せましょう。

私自身、本年10月から11月にかけて、マレーシアを訪問調査する機会を得ました。あらためて、国際化の中での日本企業の課題や展望を考える手がかりともなりました（詳しくは、こちらの [web マガジン「HANJOHANJO」掲載のコラム](#)をご覧ください）。世界の流れを受け身にとらえるのではなく、そのなかでの「ニッポン」の存在と位相、役割と可能性を考えるのは、研究者のみならず関係者すべての課題であると申すべきでしょう。「中小企業の研究者、政策立案者、実践者、教育者」(researcher, policy maker, practitioner, educator)の組織であると規定する、ICSB のプレゼンスは必然的に高まっていくのであり、日本のかかわりは不可欠の柱になってきているとせねばなりません。

ジャカルタの ACSB 理事会において、岡室、加藤両副委員長のご尽力により、2018年 ACSB を日本で開催することが承認されました。2017年はそれに向けての準備で、重要な一年になります。皆様のお知恵とお力をぜひ拝借したく、宜しく願いを申し上げます次第です。

2017年1月1日

JICSB 中小企業研究国際協議会日本委員会

委員長 三井逸友

(嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科長・横浜国立大学名誉教授)